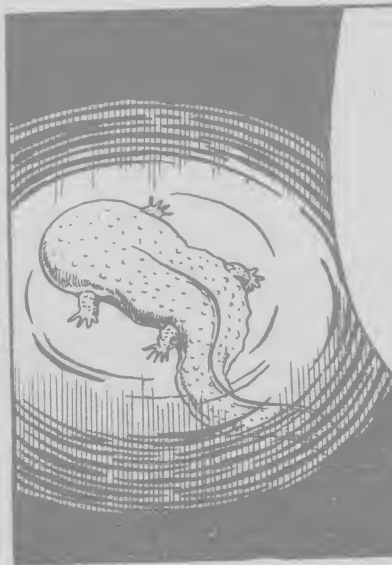
山椒魚

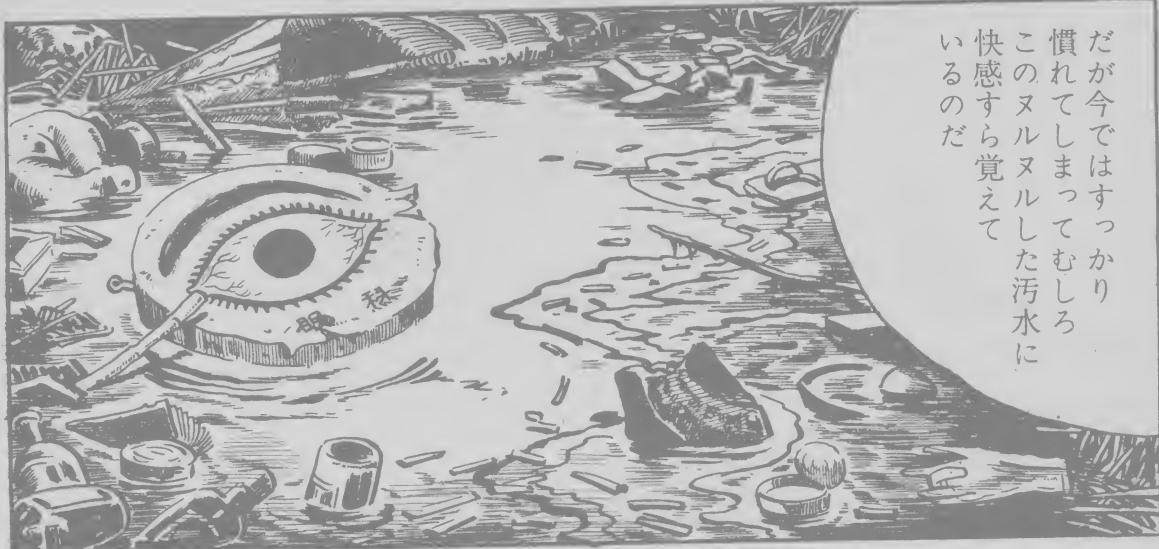
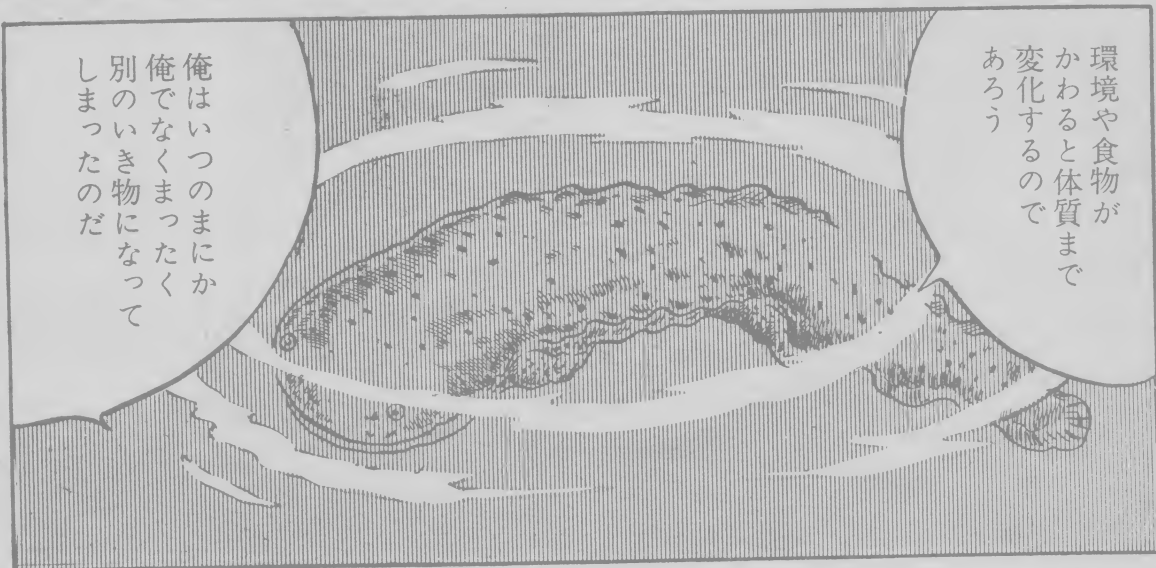
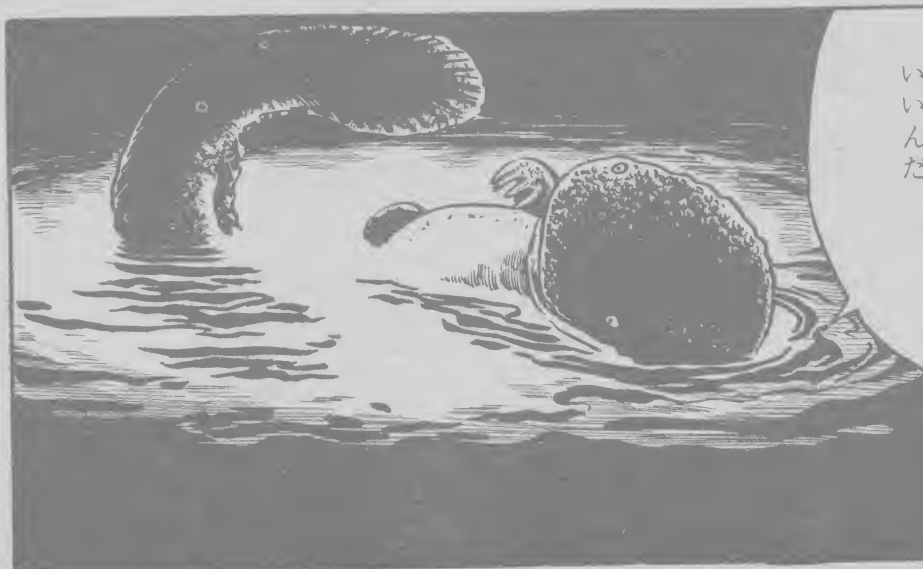
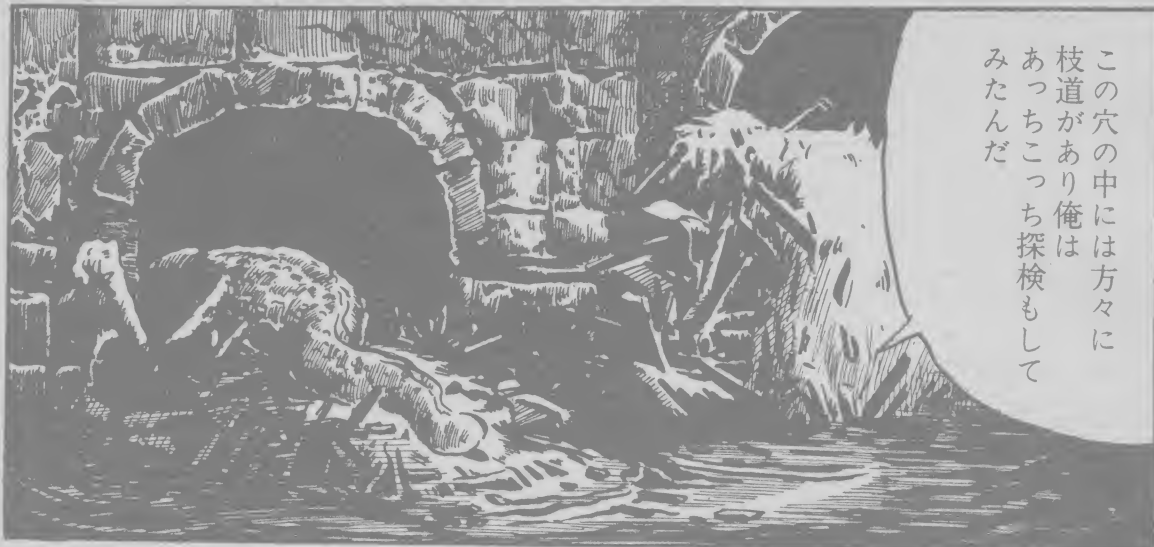
つげ義春

俺がどうして
こんな処に
棲むように
なったのか
分らないんだ

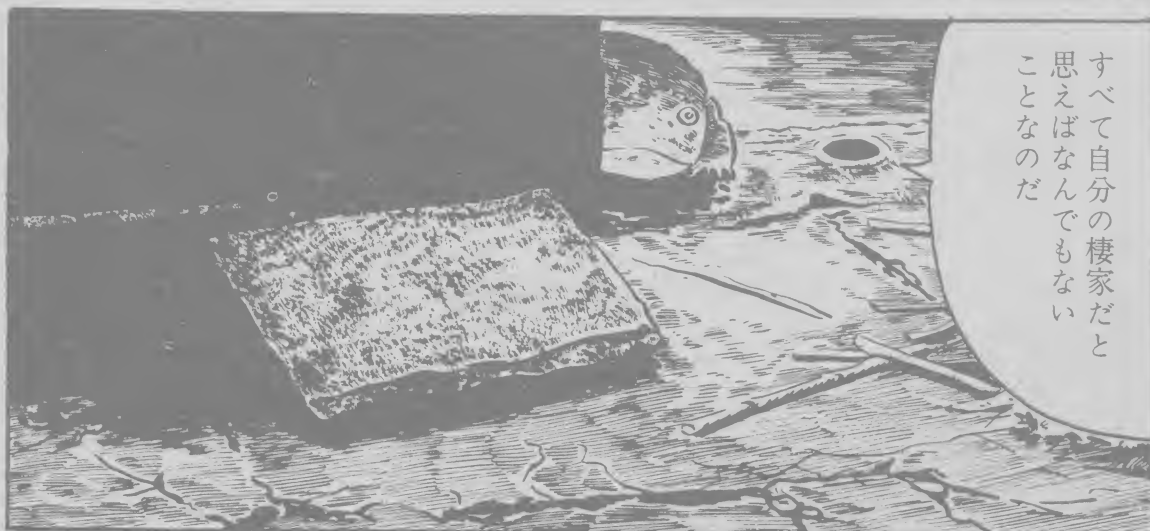
ではそれ以前の俺はどこでどうしていたのかというとサッパリ憶い出せないんだ
ただ遠い故郷があったような気はするのだが……

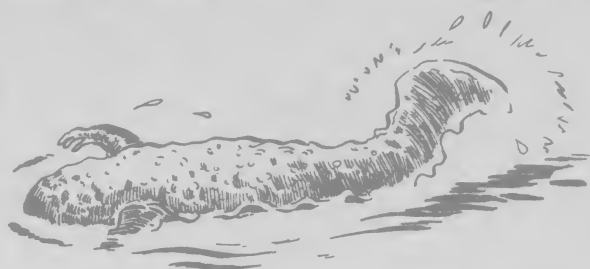
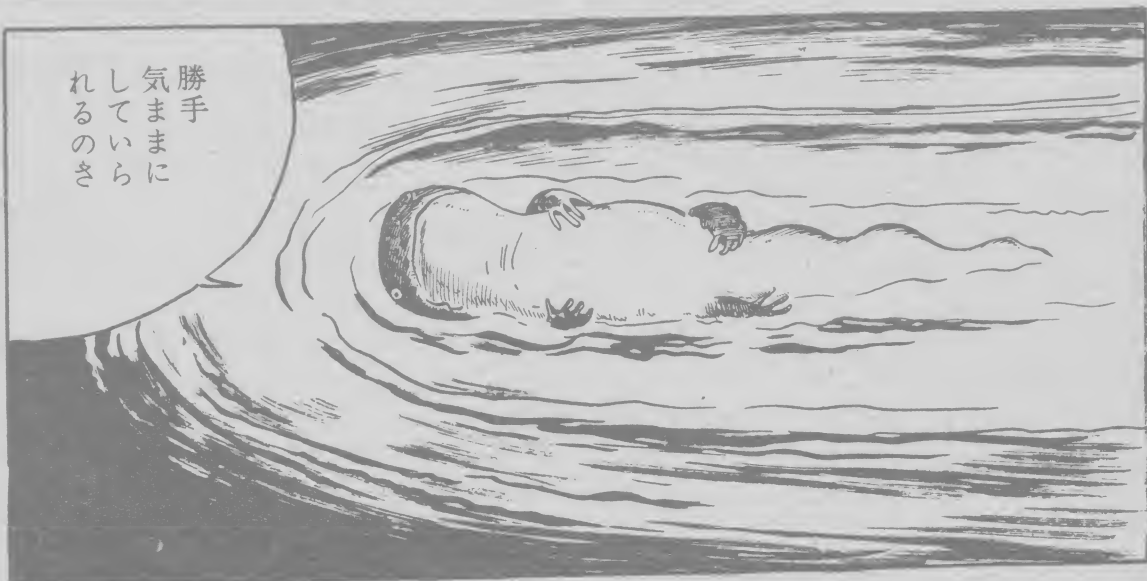
おそらくこの濁った水のせいだろうか俺の記憶はかなりボケてしまっている

もちろん初めのうちはひどく不愉快だったチッソクしそうで俺は何度も気絶したんだ

そればかりではない空腹のあまり得体のしれない腐肉や虫ケラを食べて
吐気と下痢を同時にやらかしたこともある

だが今ではすっかり
慣れてしまってむしろ
このヌルヌルした汚水に
快感すら覚えて
いるのだ

環境や食物が
かわると体質まで
変化するので
あろう
俺はいつのまにか
俺でなくまったく
別のいき物になって
しまったのだ

目方も以前の三倍
くらい大きくなり
時たまながめると
たくましく黒光り
してじつに感じが
いいんだ

この穴の中には方々に
枝道があり俺は
あっちこっち探検もして
みたんだ

道に迷い何日も同じ処を
さまよい途方にくれた
こともある

しかし考えてみりゃ
この穴の中には俺以外
誰もいないのだ

すべて自分の棲家だと
思えばなんでもない
ことなのだ

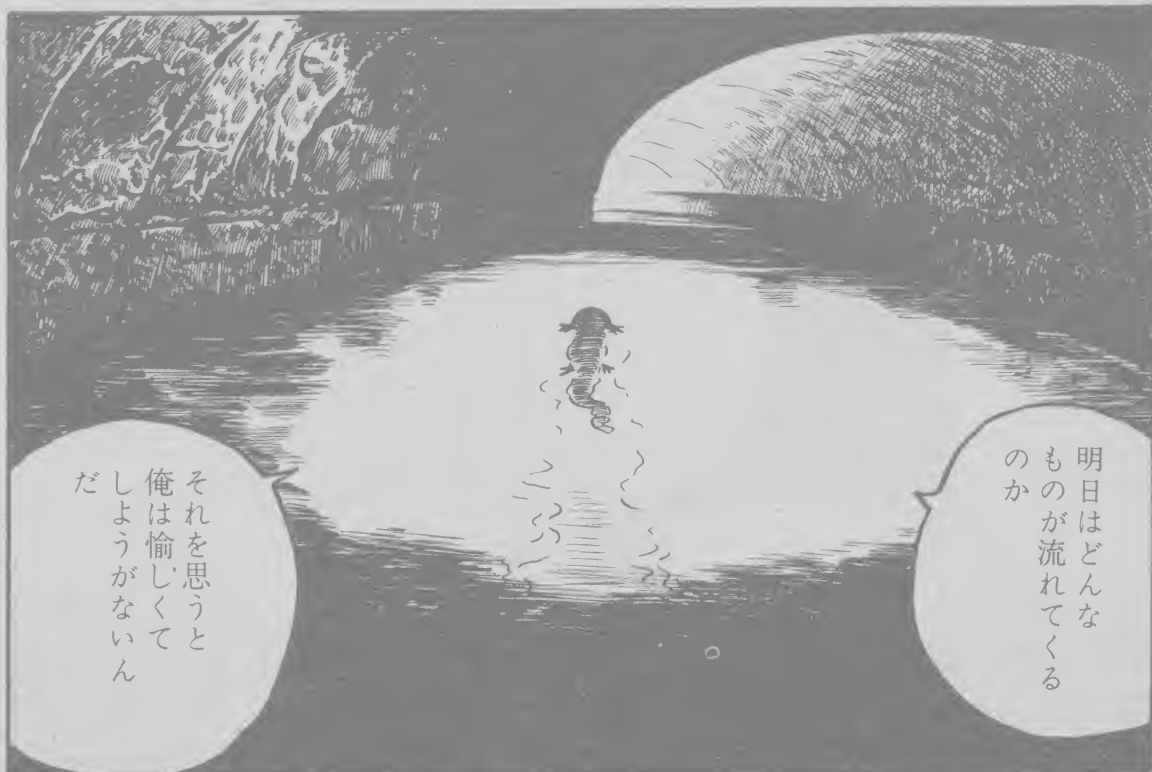
そうさ
俺は
誰にも
邪魔されず
自由に

もちろん
退屈なんか
するわけがない
毎日毎日
上流から
見慣れ
ないものが
流れてくるので

俺はその一つ一つを
点検してみるのだ
こいつは
けっこう愉しくて
没頭できるんだ

ある日俺が昼寝を
していると妙なものが
頭にぶつかった

それはまったく
初めてのもので
さっぱり正体が
つかめず俺は三日も
考えたものさ

結局どうしても
分らないので
俺は腹を立て頭突を
二、三発くらわせてや
った

まあそれ以上
奇妙なものは
お目にかから
ないが……

明日はどんな
ものが流れてくる
のか
それを思うと
俺は愉しくて
しようがないん
だ

完 42.2.28